

第2回 β本町橋・水辺の賑わい拠点づくり会議

日時：令和4年2月24日(水)13:00～14:15

場所：大阪産業創造館5F研修室AB

出席者：橋爪委員（座長）※ 栗本委員※ 谷川委員 加藤委員 西口委員 澁谷委員
大江委員 伴委員 （※リモート参加）

事務局（大阪市経済戦略局）

前田部長、和田課長、金田課長代理、山本担当係長
（大阪市建設局）

大島課長、川戸課長代理、松原担当係長、古谷担当係長

事業者 大希産業株式会社、一般社団法人水辺ラボ、
株式会社グロリア、有限会社リゾートバンク

欠席者 中野委員 能西委員

（事業者事業説明後 各委員からのご意見、ご質問）

栗本）コロナ禍で制約が厳しい中、多面的に精力的に動いておられることに関し、敬意を表す。地域にも根を張りフィールドを広げていると思うが、地域とそれ以外の活動参加者の割合がどれくらいか教えてほしい。またコロナが続くと思われるので、ライブ配信等、現地に来なくても現地の様子がわかるような工夫を考えてほしい。

水辺ラボ）陸も水上も近隣の方が3分の2程度、残りは遠方の方。土日はわりと関西圏から。遠方からの視察の要望もあるので、次年度はオンライン視察ができるよう企画中。

谷川）オープン当初から大変だとの認識があったと思うが、実際はもっと大変だったと思う。すごくいい建物で感心している。木を全面に取り入れた造りは、年数がたてば町に溶け込むのではないかと思う。建物にあるトイレだが、自由に使うことがしにくい雰囲気である。遠方の方はどのように情報を得て来館されたのか。例えば掃除に参加する方が固定されると、今後20年を考えるとよいことではない。新しい方が常に来館されるのが理想。集客のための告知方法を考えないと事業計画どおりに進まない。特に、大きな柱だったボートホテルはコロナ禍の今、開業が見込めない。事業の枠組みを考えないと日々の管理費すら賄えない。事業計画を練り直したものを是非拝見したい。

加藤）コロナ禍なので事業計画とのズレは当然出ると思う。β本町橋の存在を知らない住民が多い。空中戦だけの告知活動でいいのか。泥臭く、フェイス to フェイスの告知を地域で行わないと集客増は見込めないのではないか。コロナ禍で緊急事態であるので、直近5年間の事業計画の見直しを検討していただきたい。

西口）我々の地域は企業が多いので、川辺で屋台を出すとかが企業が参加したくなるような企画をしてほしい。また、住民はお年寄りやマンションに住む子供が多いので、道頓堀に向かうような船便を考えると、本町橋に行けば道頓堀に行けると思えるような取り組みを。野菜を売っているβイチについてはほとんど知らなかった。女性会を引き出すような仕組みを考えれば参加者が増えると思う。

澁谷）建物の知名度が低い。この建物は何か、中に何かがあるのかという質問が多い。人を

呼び込むようなイベントを。掃除に関しては毎回、少しずつ新しい人も来ているので、このまま続けていけばいいと思う。駐輪スペースについて、公園内に入っているのか、上で止めるのか、八軒家浜では土日は臨時の駐輪場を作っているが、β本町橋ではどうしたらいいのか考える必要がある。公園内の掃除用具置場に落書きをされた。防犯面も考える必要がある。

大江) コロナ禍の中、半年でこれだけの事業をされたことは感心する。特に、地域の方や水辺でチャレンジしたい方を巻き込んでやられているのが他の施設とは違うところ。係留事業に関しても安全に注意して続けて頂ければいいと思う。3月26日には大阪シティクルーズ推進協議会が八軒家浜で川開きを行う。北浜テラスの川開きもあると聞いているので、できれば次年度は日を合わせて大きなイベントにできればと思う。

伴) コロナ禍の中、このような多くのイベントをしていたことに驚いた。告知はホームページの他にどのようなコンテンツを用いられたのか。建物に関して、すごくおしゃれで、水辺に溶け込んでいると感じた。私はこの建物を知っているが、知らない人が歩いて来ながら目に留まるような何かがあればいいと感じた。

水辺ラボ) トイレ利用については、声掛けがあれば案内するようにしている。告知に関しては、ホームページ・フェイスブック、インスタグラムを活用しており、一番認知数が多いのはインスタグラム。フェイス to フェイスの告知は来客者に説明するに留まっていることを認識しており、地域の方に知ってもらえるような告知に力を入れたいと思っている。このため、20～40代の来場者が多く、マンションに住まれているお母さんもSNSでの告知で来場されている。スタート時なので、手軽に告知できるところを頼ったところがあるが、それ以外の層にも知ってもらえるような展開をしたいと思う。事業計画に関して、ボートホテルの見通しが見えないため、計画の見直しを考えている。レンタルスペースの稼働率の実績が出てきたので、今後は目標を立てて進めることができる。安定した運営ができる事業計画を練り直しているところ。焦らずに、土台のところを見直したい。いろいろアイデアを頂いたので参考にさせて頂き、事業の継続のため頑張っていきたい。

橋爪) 集客が見込める8・9月が緊急事態宣言、10～12月は通常の営業をされていた。本日示された報告書では、事業計画に対しての達成度が明記されていない。次年度以降は目標や達成度がわかる資料で報告してもらいたい。知名度を高めることは必要で、船場の企業との連携を考えてもらいたい。新たに船場でホテル間のネットワークが今3月に立ち上がるとのこと。そういった観光事業者との連携も視野に入れてもらいたい。できるだけ地域の方々、コミュニティへのフェイス to フェイスによる連携を図ってもらいたい。コロナが収まった時、通常の活動が再開するタイミングを逸しないように準備をしておくように。私は先日ドバイでの万博に参加したが、世界は通常のにぎわいを取り戻していた。今までは「コロナ禍における」と議論してきたが、今後は「Withコロナ」で事業を進めていただきたい。年間通して緊急事態ではないことが経験的に見えてきたので、次年度以降はいくつかの可能性を含めながら計画立案し、知名度も上げ、事業計画を達成してもらいたい。年に一度の報告会で、次回、いい報告が聞けることを期待している。

以上